

温故知新

これまで刊行しました、『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」、第五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」は、教育委員会や各公民館において、一冊四、〇〇〇円で好評販売中です。ぜひともお買い求めください。

『近江日野の歴史』第四回配本の第二巻「中世編」は、平成二十二年一月刊行予定です。今回は、その主な内容についてご紹介します。

中世編のあらまし

今回刊行の「中世編」で取り上げる時期は、平安時代の終わりから戦国時代の終わりまで、世紀

で言えば、一一世紀頃から一六世紀の終わり頃までのおよそ六〇〇年の長きにわたります。

今回の中世編の一つの特徴は、日野と切つても切れない関係にある、蒲生氏の活躍について大きく取り上げる点にあります。そのため、氏郷以降の代の蒲生氏については特に一章を設け、蒲生氏郷が日野を離れて以降、江戸時代の寛永十一（一六三四）年に蒲生家が断絶するまでの歴代の当主（秀行・忠郷・忠知）やその家臣団についても、詳しく扱います。

では、宗教と文化の側面から日野の地域像に迫ります。西明寺・金剛定寺・馬見岡綿向神社など寺社の史料や和歌・連歌・漢詩などの文芸作品を通じてみた、中世の日

また本書では、蒲生氏に関することのみにとどまらず、中世の日野という地域の特質を中心の政治との関わり、文化や宗教のあり方など、様々な角度から明らかにします。以下では、各章ごとにその内容をご紹介します。

各章のおもな内容

第一章「鎌倉・室町時代の日野」では、蒲生氏の勢力が次第に日野の地域に浸透していく様子を取り上げます。蒲生氏の系図の詳細な検討、日野におかれた荘園の特色、室町幕府と蒲生氏との関係の分析などを通じて、新しい研究成果を多く盛り込んでいます。

第一章「日野の中世社会と文化」

では、宗教と文化の側面から日野の地域像に迫ります。西明寺・金剛定寺・馬見岡綿向神社など寺社の史料や和歌・連歌・漢詩などの文芸作品を通じてみた、中世の日

野の姿を紹介します。

第三章「戦国時代の日野」では、畿内や近江における戦国時代の情勢のなかで、日野の地域や蒲生氏がどのような役割を果たしたかを明らかにします。守護六角氏の重臣として大きな役割を果たした蒲生定秀、蓮如の影響を受けた真宗

信仰の浸透、城館の構築と城下町の成立など、様々な側面から地域の変化の様相を明らかにします。

第四章「信長・秀吉時代の日野」では、蒲生氏郷やその父賢秀の活躍、それに続く氏郷の大大名への転身など、日野を離れたのちの蒲生氏などを通じて、新しい研究成果を多く盛り込んでいます。

〈予約と販売のご案内〉

『近江日野の歴史』各巻の販売価格は四、〇〇〇円（税込み）です。なお、「中世編」につきましては、十二月十五日までに予約のお申し込みをいただきますと、三、八〇〇円の割引価格にて販売いたします。また、最終巻が無料となる全巻セット購入の受付もおこなっております。詳しく述べ、まもなく配布しますリーフレットをご覧ください。

日野町の中世の魅力を網羅したこの一冊を、この機会にぜひともお買い求めください。お買い求めくださいよう、お



▲雲雀野の蒲生氏郷像

の過程を詳しく描きます。また、新たな史料の充実により、松坂・会津・松山時代の主な家臣たちにも注目することで、近世大名としての蒲生氏の姿をも明らかにします。

以上のように、この『近江日野の歴史』「中世編」は、これまでの

『近江蒲生郡志』『近江日野町志』などの歴史書を参考にしつつも、最新の研究成果を取り入れた読み

応えのある内容です。ぜひ、ご一読ください。